

令和6年12月定例教育委員会会議録

令和6年塩尻市教育委員会12月定例教育委員会が、令和6年12月26日、午後1時30分、塩尻総合文化センター大会議室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 1月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について

4 議 事

- 議事第1号 学校職員の指導上の措置について<非公開>
議事第2号 塩尻市教育委員会等の公印規則の一部を改正する規則

5 閉 会

○ 出席委員

教育長	赤 羽 高 志	教育長職務代理者	碓 井 邦 雄
委員	徳 武 あ ゆ 子	委員	甕 剛
委員	八 島 思 保		

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	百 瀬 一 典	交流文化部長	胡 桃 慶 三
こども教育部次長 (こども未来課長)	竹 中 康 成	交流文化部次長 (社会教育スポーツ課長)	上 條 史 生
学校教育課長	上 條 崇	文化財課長	古 畑 比 出 夫
教育施設課長	五 味 克 敏	平出博物館長	小 松 学
保育課長	塩 原 清 彦	市民交流センター 長(図書館長)	矢 澤 昭 義
主任学校教育指導 員	村 上 啓		

○ 事務局出席者

1 開会

赤羽教育長 皆さん、こんにちは。今朝は小雨が降っていて、南風が吹いていました。朝ですが、市内最後の終業式を迎える片丘小学校へ登校する子どもたちの様子を見ながら通勤してきました。学校信号機前での出来事です。中学年ぐらいの男の子が、交通安全の旗を持って見守ってくださる交通安全協会の方の前に来ました。歩行者信号が青に変わり、男の子は渡り終えると、交通安全協会の方とドライバーにぺこりとおじぎをしました。交通安全協会の方は見る間に笑顔がこぼれました。

学校は、12月に入るとインフルエンザが大流行しまして、学級閉鎖等が各学校に続出しました。この2学期は一番長く、実りの多い学期でした。子どもたちは、家族や親戚と過ごす楽しみな年末年始休業に入ります。その中で、ぜひ家族の一員としての役目を果たしてほしいと願っています。

それでは、ただいまより12月定例教育委員会を開会いたします。よろしくお願いいたします。

2 前回会議録の承認

赤羽教育長 まず初めに、本日、追加議案が1つございます。また、資料に何点か不備がございましたので、差替え用の資料を御用意しておりますので、机上に置かれた資料を御覧いただいております。

次第に従いまして、2番、前回会議録の承認について事務局からお願いします。

佐藤教育企画係長 前回、11月定例教育委員会会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名いただきますので、よろしくお願いいたします。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

赤羽教育長 それでは、そのようにお願いいたします。

3 教育長報告

赤羽教育長 3番、教育長報告に入ります。4点報告させていただきます。

1点目ですが、テレビ松本創立50周年記念事業ということで、地域のすばらしさを見つめ直し、夢を与えるべく、伝統文化や祭り、伝統行事といった地域の「たから」に光を当て、未来へ継承するという趣旨の下、松本市、山形村、塩尻市から9地区の代表の子どもたちが舞台上で発表する「子どもたちのゆめ舞台」が、まつもと市民芸術館主ホールを会場に11月30日に行われました。塩尻市からは、阿禮神社の子どもの舞と床尾神社の御神楽が出演しました。

塩尻市では、今年度からスタートした第六次総合計画において、「多彩な暮らし、叶えるまち。一田園都市しおじりー」を目指す都市像として設定いたしました。中期戦略の施策の中では、地域の伝統的な行事や文化活動を通じて、様々な世代間のつながりが生まれて、次の世代へ引き継がれることを目指して進めている中、今回の催物の企画がとてもありがたいなという気持ちで、私、会場に向かいました。

早めに会場に到着したので、塩尻市の楽屋を突撃訪問して激励しようかなと思いました。楽屋では、多くの地域の大人たちに囲まれた子どもたちがそこにおいて、目がきらきらしていました。代表者の方からは、「この子どもたちをどうか評価してください。よろしくをお願いします」と挨拶をされました。テレビスタッフからは、このイベントの様子は年末に放送されるとお聞きしました。貴重な経験をしている子どもたちが、今後も中核として育て、末永く地域文化を継承して行ってほしいと感じた「子どもたちのゆめ舞台」でした。出演した学区の塩尻東小学校の名取校長先生と宗賀小学校の米窪校長先生には、後日、踊った子どもたちの様子を私のほうから報告させていただきました。

2点目です。「2024 豊かな心を育む市民の集い」が12月7日、総合文化センター講堂を会場に開催されました。第1部では、人権擁護委員協議会塩尻部会の10名の方の活動内容について発表がありました。子どもたちに関わるものとして、子どもの人権SOSミニレター、人権教育教室、全国中学生人権作文コンテスト作文審査など、子どもたちを見守ったり応援したりする心強い活動の応援団であります。

今年度は、横山人権擁護委員から、人権作文コンテストの入賞作品の朗読がありました。後半のまとめの部分に当たるところを紹介したいと思います。

「自分にもできないことがないかと、自分でできることは自分でしたり、家事を積極的に手伝うようになりました。この経験から、世の中には、人の気持ちを考えずに人を傷つける人が少なからずいることを知りました。その一方、優しく手を差し伸べてくれる人もいることが分かりました。私たちのように傷つく人がいなくなるためには、一人一人が、自分がされたらどう考えるかを、どう思うかを考える、常に意識して行動することが不可欠だと思います。そして、いつかこんな思いをすることがないような、みんなが平等に生きていける社会になる日が来ると信じて、自分にできることから精いっぱいやっていきたいです」と結んでいました。

入賞された中学生の優しく、そして力強い気持ちが会場に伝わってきました。頼もしさも感じました。ふと私が子どもの頃、平気で人の欠点を責めたり、変えようがない環境をあざ笑ったりする集団に対して、無防にも立ち向かっていったことをこの作文から思い起こしました。

続いて第2部は人権講演会。減災と男女共同参画研修推進センター共同代表、浅野幸子さんから、「避難生活で健康被害や関連死を出さないために」と題し、避難所の劣悪な環境、対応策などについてお話をいただきました。プライバシー、防犯、育児、介護などの配慮がされない避難所運営の意思決定は男性が中心で、女性は炊き出しといった形で、固定的な性別役割が見られ、結果として、環境、衛生、物資などの面の改善が遅れる傾向に陥る、このようなお話があり、本市でもすぐに取り入れなければならない事案だと学びました。

令和6年元旦の午後、横になって休んでいたとき、穏やかな元旦を一変させるスマートフォンの緊急警報、能登半島地震が起きました。テレビをつけると、甚大な被害が明らかとなっていました。さらに、能登半島地震は復旧が進まない中、今年の9月21日から記録的な大雨となり、地盤が緩んでいた地域では土石流が襲い、尊い命がまたも失われました。大自然の脅威は、人間も場所も時刻も全く関係ありませんでした。

3点目です。12月11日、午後の時間ですが、松本山雅現役Jリーガー浅川隼人選手が体育館に来て、市内高ボッチ教室等を活用している小中学生と一緒にサッカーゲームを行って、

みんなでスポーツを楽しみました。浅川選手とミニサッカーゲームをする中で、小学校高学年の女子児童の動きに私は目が留まりました。2つのコーンを3メートルぐらい空けて、そこをゴールに見立てて、その真ん中で、この女の子は迫ってくるサッカーボールを1人で必死に防いでいる姿がありました。浅川選手も、女子児童の機敏な動きに気づいて、ボールの向きを変えたりすると、女子児童もそれに応じて足を出して守っていました。

このように、浅川選手はどの子にも声をかけたり、ボールパスしたり、スポーツの楽しさを伝えていました。子どもたちの目が輝いていました。その後、サイン会も用意され、一人一人の子どもたちに優しい声かけをされていました。そして記念写真を撮って、イベントは終了しました。

私は、その後、その女の子の動きがあまりにすばらしかったので、「すばらしかったよ」と伝えると、返ってきた答えが、「私、運動オンチなのです」の返答。「そんなことないよ。浅川選手と対等にゴール前でプレイしていたよ。浅川選手も機敏な動きに注目していたのが、私、分かったよ」と伝えると、にこにこ顔をして、高ボッチ教室の中に入っていました。

浅川選手からも即日コメントがありました。「今日は塩尻市で、学校に行くのが難しい子どもたちとスポーツをしてきました。ふだんはなかなか汗もかかなかったり、隅っこにいたりする子たちも、今日は最初から最後まで全力でした。今日得たものが何か学校への一歩になれたらうれしいな」。私は、自分に自信を持って一歩前に進んだ子どもたちだったなと感じました。

最後4点目です。12月22日、京都市で行われた全国高校駅伝は、男女とも長野県代表が優勝しました。信濃毎日新聞社会面では、「女子代表の長野東高校は、並みいる私立強豪校に屈せず、特に3区は、走力が高い留学生を投入するプレッシャーのかかる区間。主将でプレッシャーに強い窪田舞選手しかいないと監督が起用し、首位でたすきを受け取り、リードを守って後続につないだ」と記事がありました。

この主将の窪田舞選手は塩尻中学校の出身でした。大会当日、東地区の公民館では、パブリックビューイングが行われ、関係者が集まって盛り上がったとお聞きしました。今年1年、若い選手たちが大活躍した塩尻市だったなということを改めて感じました。

報告につきましては以上であります。委員の皆様から御質問や御意見、そのほかのイベント等、参加されました報告がありましたらお願いしたいと思います。それでは、よろしくお願ひします。

碓井教育長職務代理者 今、教育長から2番目にお話のありました、豊かな心を育む市民の集いについてですけれども、私は当日、夕方に用事がありましたので、前半の第1部だけ出席させていただきました。先ほど教育長から人権作文の内容についてのお話がありました、私も全く同様に感じました。

私からは、先月行われたこんにちは教育委員会及び諸表簿・施設等点検に関わってお願ひをしたいと思います。11月は、市内の小・中学校4校を訪問させていただきましたけれども、こんにちは教育委員会の関係では、11月15日に檜川小中学校を訪問させていただきました。このことに関しては、甕委員から前回定例教育委員会で若干お話がありましたし、事務局でグループ討議の内容もまとめていただきましたが、少し触れさせていただきます。

私は義務教育学校での教育実践にとっても興味があり、また小規模特認校が本年度から始まりましたので、その2点については先生方からお聞きしたり、子どもたちの様子を見たりし

たいと思って、檜川小中学校でのこんにちは教育委員会に臨みました。先生方とのグループでの討議の中でお話をお聞きすると、義務教育学校の実践については、どの先生方もおおむね肯定的でありました。その理由は、小から中へのギャップがほとんどないとか、後期の先生から前期の児童が指導を受けられるメリットがあるなどでした。

また、小規模特認校の関係では、本年度転入した7名の児童生徒については、子どもたちと共に考えながら学校生活を送れるようにしているとのことでありました。ほかには、県外から転入希望者が参観に来て、学校が気に入っても住む場所がないとか、学区外から来る子どもは家の人が送ってくることが多いが、通学バスを西部中のバス停から出してもらおうと保護者の負担が減るのではないかなどの現状や要望が出されました。それ以外では、短期留学、予算、遊具、合同部活等のお話もありました。

私は、参観や懇談をさせていただいて、檜川小中学校は義務教育学校として、とても魅力的な実践を積み重ねてこられていると思いました。また、在校している子どもたちの他者、私たちのような部外者への対応にも温かみがあり、ほかから転入しても登校しやすいのではないかという感じを受けました。ただ、子どもたちの人数という点で、1年生は3名でしたし、4年生は7人中男子1人で、男女比が極端でしたので、今後の教育活動や効果という点で心配な実態があるなど、そんなことも感じました。

このこんにちは教育委員会のグループ討議のまとめは、事務局でしっかり作成していただいておりますので、先生方から出された内容については、可能な限り実現に向けて御検討いただければと思います。

次に、諸表簿・施設等の点検については、吉田小、広丘小、塩尻中で行われて、私たち教育委員は授業参観をさせていただきました。私は、どの学校も子どもたちは落ち着いて授業に取り組んでいるという印象を持ちました。小学校2校については、最近、不登校等のお子さんが低学年でも出てきている現状がありますので、私は、低学年の子どもたちの様子中心に授業を参観させていただきました。参観させていただいた低学年のどのクラスも、身近なものを教材に子どもたちの興味を引く問答があって、その後、プロジェクターとかタブレットを使っただけの学習につなげる等、場面の展開をリズムよくとといいますか、テンポよくとといいますか、そのような工夫をして展開されている感じを受けました。

授業中、ときには、先生の発問とずれた発言をしてしまうお子さんもいましたけれども、先生は「上手な言い方できましたね」とか「そうなんだ」と、肯定的、共感的にその子を評価し、そして、今考えるべきことや答えることについて、「どう思う」というふうに指導支援されていて、その対応の姿がとても印象に残りました。今申し上げたことは授業の中での子どもと教師のやり取りの一コマでありますけれども、子どもたちが安心して教室に行ける、教師の指導・支援の一つの大事な姿を学ばせていただいたなと思いました。

また、塩尻中では、教室の前面、メインの黒板周りがすっきりしていて、これは、特別支援教育で大事にしているユニバーサルデザインの考え方を生かしているということでした。参観させていただいた市内のどこの学校でも大体塩尻中と同じでしたけれども、市で力を入れている特別支援教育や毎年夏の職員研修の成果の一つではないかと感じました。

それから、スペシャルサポートルームが設置されている学校については、小学校、中学校とも、その部屋を参観させていただきました。その際、そこで学校生活を送っている子どもたちや先生から、夏は暑くて大変だからエアコンを設置してほしいというお話がありました。

また、そこで支援する先生が、半日勤務の先生のため、午後は、子どもたちがそこから校長室へ移動して過ごすという学校もありました。スペシャルサポートルームについては、不登校等のお子さんの支援の一つの柱として大事にしていると思いますし、今後もそういう方向だと思いますので、このような点もしっかりサポートしていただければと思います。

スペシャルサポートルームの施設設備や支援体制については、後で結構ですので、市内の現状や今後の見通し等を教えていただければと思います。

赤羽教育長 ありがとうございます。今の中で答えられるところがありましたらお願いしたいと思います。

五味教育施設課長 エアコン関係ですが、スペシャルサポートルームの設置するに当たり、今年度は吉田小等から設置要望がございまして、今、実施設計を進めております特別教室等のエアコン設置の中で、事前に各教頭先生のほうに、スペシャルサポートルームの設置があるかないか、それと、そこにエアコンの設置がされているかどうか一通り聞き取りしまして、設置されていない学校につきましては、今の設計の中で設置を検討しており、来年の工事で設置していく予定でおります。私からは以上です。

上條学校教育課長 同じくスペシャルサポートルームにつきましては、今年度から小・中合わせて8校に設置済みという状況で、また来年以降も、順次設置できる学校については設置していく予定にしております。基本的にスペシャルサポートルームは、学校に来られるけれども保健室へ行くとか、クラスに行けない子が主な行く場所となりますので、そういった子がいないような学校については、今のところ、まだ設置については考えていないと伺っています。

あと、職員体制につきましても、今年度は市費で、宗賀小学校に専属職員を1名つけさせていただいております。また、市の職員は人事課が担当になりますので、人員配置は引き続き要望をしていき、できれば各学校に1人ずつ配置していきたいと考えております。

碓井教育長職務代理者 繰り返しになってしまうのですが、スペシャルサポートルームを不登校支援の一つの柱として大事にしていく方向であれば、施設設備や支援体制も含めて、スピード感を持ってしっかりとサポートしていただければと思います。

エアコンは、来年の夏は大丈夫という感じでしょうか。

五味教育施設課長 エアコンは、来年の夏というお約束ができません。市内13校ありますので、恐らく工事は各学校ずつやっていくような形になるかと思います。これは施工業者が決まらないと分からないのですが、夏に設置が完了するのは難しいです。

碓井教育長職務代理者 子どもたちは夏の暑い中、登校しているわけでありまして、今年の夏のように来年の夏が暑いかどうか分からないですけれども、ぜひスピーディーにやっていたいて、子どもの教育環境を守っていただければと思います。

赤羽教育長 では、続けて。

徳武委員 先ほどお話のありました豊かな心を育む市民のつどい、私は第2部の講演会のほうに参加させていただきまして、現実的に自分の地域でも起こり得る話というのが、まさに自分ごととして考えなければならぬことだなと思って聞いてきました。

災害時の人権問題ということで、避難所においてであったり、または防災計画において、男女共同参画の問題ということで、どうしても地域の役員というと、よくも悪くも肩書きのある男性、もしくはシニア、そういう人たちが多いのだということは今まさに現状そのとお

りであって、どうしても女性の意見がなかなか反映されないという中で、講師の先生がおっしゃっていたのは、とにかくそういった状況に自分がおかれた場合に、我慢、根性論は絶対いけないということを言われたことです。もし災害に遭ってしまったら、誰も、みんな我慢しているのだから自分も我慢しなければいけないのではないかとか、そういうことを常に思ってしまうのですけれども、大変だ、困っていると思うことを我慢せずに意見として反映させることで、その場所がさらによくなっていくのだということを特に言われていたかと思えます。

地域の役員、今の時代では、決めるのは本当に難しいとは思いますが、女性が当たり前に入っていけるような、そういう地域づくりというのも大事なのではないかと思います。

これは中学校の話なのですが、私が息子から聞いたのですが、今年、西部中学校で生徒会役員の選挙をしたときに、去年までは、副会長は男女各1名ずつということでやっていたのですが、今年からそれをなくして、副会長は性別関係なく2人、男子2人でもいいし女子2人でもいいということで、そういう選挙をしたそうです。もうそういう時代なのだと思うので、私はすごく歓迎すべきことだと感じまして、中学生とか高校生、若い世代の子は、もうそういう男女共同参画と言わなくても、そういうことが当たり前できていると感じました。ほかの学校ではそういった点がどうなっているか分からないのですが、西部中の生徒会の選挙に関しては、とてもいい取組だと感じました。

それから、もう1点です。12月22日、ふれあいセンター洗馬におきまして、ふれあいセンター洗馬と児童館の共同でクリスマスコンサートがありまして、そこで西部中の生徒が孫の手プロジェクトということでお手伝いに参加したというのを、見学に行っていました。生徒たちは2週にわたって参加していたのですが、前の週は飾りつけですとかプログラム、あとはオーナメントを作ったりとか、そういうお手伝い。当日は、おにぎりを作ったりとか、豚汁を作ったりとか、あとはお客様の御案内だとか、そういうことをやっていました。全部で十数名の参加があったそうなのですが、今までにはなかった取組ということで、職員の方にお話を聞いたのですが、生徒たちが来て、とてもにぎやかで明るい雰囲気準備においてもとても助かっているという話がありました。

隣にふれあいセンター洗馬が併設されているものですから、お年寄りもクリスマスコンサートに見えて、そして児童館もありますから、児童館の子どももクリスマスコンサートに来るということで、異世代間の交流というか、すごくいい雰囲気ボランティアの経験ができているなと思いました。

洗馬の児童館は、初めて見せていただいたのですが、センター内にあるということで、とても開放感があって広いですし、常にいろいろな方が見えているということで、安全面でもすごくいいかなと。また、交流ができるというのは特に良い点かと思いました。

ちょうどその日は校長先生がお見えになっていて、いろいろお話しさせていただいたのですが、日ごろの取組から、西部中の孫の手プロジェクトにも様々な依頼がほかにも来ているということで、そういうことで地域をのつながりがさらにどんどん増えているということをおっしゃっていました。なかなか全てを交流とか、ボランティア活動につなげることは難しいのですが、なるべく形にしていきたいということも聞いています。

生徒たちはすごく一生懸命で自主的にやっていた姿が印象的でした。まだまだほかにもブ

ドウ園の剪定のお手伝いなどをしているのも聞きますし、コンサートもよかったので、私も見ていてとてもうれしい気持ちになって帰ってきました。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。続けてお願いします。

八島委員 私も、豊かな心を育む市民のつどいに参加させていただきました。1部、2部ともに参加いたしました。お三方と同様な感想を持っています。1部の人権作文、そして2部の災害対策について、やはり当事者意識をしっかり持って、常に平時から課題解決をしていくことが大事であると改めて感じさせていただきました。

2点目、12月9日に、キャリア教育の一環で丘中学校の2年生を対象に行った「いきはたトーク」実施されました。地元起業家として参加しました。人との関わり方や生き方を感じていくキャリア教育の根本を意識した取組であり、企画概要には、学生と人生の先輩がお互いの人生や仕事、価値観について対話を行うことで学生の自己理解を深めるとともに、ロールモデルとの出会いによる地域参画や愛着醸成につなげるプログラムと記載がありました。社会性が固定化されている、定着した大人との関係性のみではなく、人間力や社会力を豊かにするために、プログラムの中で大切にしたいことは、親や先生などの縦の関係でも同世代の横の関係でもない、新しい視点をくれる斜めの関係づくりですと説明がありました。生き方のモデル、知り得る職業、限られた情勢の中で視野を広げて、夢と希望を持って自分の生き方のスタートにしてほしいと、黒沢校長からは冒頭に挨拶がありました。

事前に人生グラフを作成し、当日はそのグラフを用いて、大切にしたい価値観や人生経験について、大人（ここでは先輩）が学生1人から3人に自分の人生グラフを発表し、次に中学生と1対1の対面で生徒の話を聴きました。対話をしていない時間帯の生徒は、先輩の人生紙芝居を聞いていました。順番でローテーションをしていき、対話を行いました。対話中には、生徒たちの人生グラフの高低を深堀し、思いを引き出し、気づきや発見を生み出す機会となったのではないのでしょうか。

私は個人的にはプロフェッショナルコーチング講師の資格を取得しておりますので、セッションには慣れていますが、不慣れなであれば、聴くスキル、質問するスキル共感するスキルは訓練なしに、おいそれとはいかないと思いますが、生徒の話を聴きたいと真剣に大人が向き合ってくれた姿は生徒たちの魂をほぐすきっかけにつながったのではないかと思います。

最後に、黒沢校長先生と学年総合担当教諭からは、生徒たちは穏やかな顔であり、一人ではないことを実感している感じであったと。生き方につながるようにしていきたいと感想を述べられていました。

しかし、引き出す人生経験値が中学生ではまだ乏しい印象がありますので、プロセスは少し工夫をされたほうが良いのではないかと感じましたが、情報量がすごく多く、視野リアルが狭い現実社会では、ストレスゾーンも狭くなりがちです。新しい形のキャリア教育として、期待度は高いと感じました。

ですが、感染対策としては、どうしようもないほど最悪だったとしか言いようがありません。私もいけはたトークに参加した2日後、インフルエンザで39度6分まで発熱いたしました。コロナ禍を経て、集団生活での感染対策を痛いほど学んできた学校現場において、なぜこのようにパンデミックを起こしてしまったのか、インフルエンザの集団感染を助長させるとは何事であるかと、反省すべき企画であったと強く思いました。学校は学びと成長の場

です。しかし、何よりも大切にしなければならないことは、生徒の安全です。

本日、塩筑医師会より報告された、市内小中学校のインフルエンザ欠席状況を入手いたしました。確認した結果、12月9日に丘中学校は感染者7名でした。翌10日に20名へ増加し、11日は17名、12日40名、13日77名と、急増いたしました。学年閉鎖、学級閉鎖は2年生です。2年2組、2年3組、そして2学年、3学年、最後には学校閉鎖にまでいたってしまいました。やはりいきはたトークが原因であると考えられます。

そして、翌週には、兄弟関係がいる確率が高い吉田小学校へと感染が拡大いたしました。私は医療従事者ですので、厳しく感じております。子どもたちの安全を考えていくのが学校の責務であると思います。学年閉鎖により生徒たち、そして一番身近な集合体である家族、また、いきはたに参加した就労人が次々に感染をし、収益への影響を与えた可能性もあるのですよ。子供は大人材料ではありません。大人たちのキャリア教育に対する考えに、新しいものを取り入れていきたいと、わくわく感は分かりますけれども、パフォーマンスを盛り上げる材料に子供を使つてはなりません。受験シーズンも控えています。もう少し配慮が必要であったと思いますよ。

もう1点指摘させていただきます。このようなキャリア教育やイベント行事において、特に配慮していただきたいことは、大人の皆さんは写真を撮りすぎです。バチバチ近くで撮らず、撮影するなら距離をとって行っていただきたいと思います。

特に今回のようなコーチングセッション様な取り組みでは、内面に踏み込みアプローチするには、人間空間づくりはとても大切な素材要因なのです。子どもたちが自分の気持ちを表現するときは、前段階が多かったり、訳の分からない話を堂々巡りにすることもあったり、沈黙をしてしまうこともあります。ですがそれは全て、対話をしながら自分の頭の中を整理し自分の気持ちを探しているのです。黙っていることを待つことは、コーチングではとても大事なことです。話しにくいことであればあるほど、中々単刀直入にはいきません。気持ちの思考の流れを作り上げているときに、周りの観衆の大人が、黙っていないで話してみたらとか、どんな感じとか、いちいち声をかけたり、バチバチバチバチ写真を撮られたりと、外野素人のデリカシーの無さには、コーチとしては非常に残念に思いました。そして大人のような行動は、生徒たちにとっては、やらされている感が増すことにつながりますので、大人はそっと見守る程度のエスコートでよろしいのではないですか。以上です

赤羽教育長 では、続けて。

養委員 今年最後の定例会ということで、いろいろとお世話になりました。ありがとうございます。

私は1年間、学校と保護者と地域が一体になって子育てしたいということの思いから、ホームページをかなりうるさく言ってきたつもりでいます。今回もいろいろ見させてもらおうと、東小、吉田小、片丘小、丘中の栄養士の皆さんが、給食に関する丁寧なお便りを出してくださっていて、その献立メニューを見ると、世界各国の料理を丁寧に給食にアレンジした形で伝えているところがとても丁寧だなというふうに思っていますし、すごく感謝したいと思います。

ある学校の保護者から、コロナ禍から給食の試食会がないということで、そういったことをまた学校単位で考えていただいて、子どもたちの給食を食べる機会を増やしてほしい

いと思っています。

その学校だよりの中でも、塩尻中学校と東小学校の白桔梗と阿禮の里、保健だよりとか学校だよりで、この休みに入る前にインフルエンザの注意喚起を必ずしてくださっていることとか、あと、休み中の相談先として、いろいろな支援センター等の一覧をつけて、困ったことがあったらこういうところに窓口があるので相談してくださいと、ホームページで丁寧な掲載をしてくださっているところにもすごく感謝します。

また、塩尻中学校では、地域に対してのお礼の言葉も添えてあったりしたので、発信する相手が保護者だけではなく、地域に向けてホームページで発信しているところに、すごく丁寧な対応をされているなどと思って、ほかの学校でも、少し面倒ですけど、そういったことを踏まえながらホームページで発信していくことは大事だなと思います。

徳武委員がおっしゃられたように、孫の手プロジェクトも細かくホームページに掲載してくださっていて、ああいうのを見ると、地域の方も生徒たちにお願いしようかなとか、生徒たちに還元してあげること、また地域の人たちが考えられたりとか、とても大事な取組だと思うので、そういったことを続けていってほしいというふうに思います。

あと、要望が2件あるのですが、1点は、また私がうるさく言うことなのですが、1年生に黄色い帽子とかランドセルカバーとかをつけて登校させているのですが、帽子は希望者に対してあげているものだと思うのですが、あれを希望者ではなく、入学プレゼントとして全員に与えてほしいという部分があって、もしかすると全員希望しているのかもしれないのですが、希望ということになると、どうしてもお願いしないといけないということになりますので。見守りをしていると、1年生は小さくて見にくいので、あの黄色い帽子をかぶっていると、遠くにいても分かりやすいという点がありますし、安全面を考えても、1年生に関してはプレゼント型にして全員に配布してほしいという、1つ要望です。

もう1つは要望というか、これは皆さん多分御存じだと思うのですが、部活動の地域移行で、神戸市の教育委員会が2026年の夏をめどに部活動を終了するという形を出したのです。私としても、部活動の地域移行に関してはいろいろな選択肢があると思いますが、あの神戸市でさえ部活動を中止すると、完全に民間に委託する形を取っているのです。そういったことも視野にいれてもいいのかなと思っています。

あと、もう1つは、先生たちの働き方改革として、土日に出た先生は平日に休みを取ってもらって、その分、平日にシフトを組んで先生のカバーできるようなシステムをつくるのかというような工夫も必要なのかなと思います。

毎回、市議会議員の方たち、皆さん質問されていますけれども、多分答弁するのも飽き飽きくらいのことだと思うので、そういったことも視野にいれてもいいのかなというふうに思っています。

あと、ここから3つ質問をお願いします。1つは、来月、二十歳のつどいが行われると思いますが、これは保護者からの質問なのですが、私も知らなかったのですが、保護者が二十歳のつどいと一緒に入っていた時期はあるのですか。それが来年は可能かどうかというのを教えてほしいということをお聞かせしたので、もし分かれば教えてください。

2つ目は、先日、新聞報道でもあったと思いますが、勤務時間外の自動応答の機械の設置が17日から24日までに行われたと思いますが、その設置状況と、まだ日にちがたっていないので現場からの反応は薄いと思いますが、やっとそういった対応をしてくださったというこ

とで、私もすごく喜んでいるわけですがけれども、その現場の反応ももし分かれば教えていただきたいということです。

最後に1つ、これも報道であったものですが、志学館高校と田川高校の再編の第7回の懇話会が今月の19日に開催されたと思います。多分、教育長が座長ですよね。現役の役員や生徒は単年の構成員だと思うので、要は去年の構成員と違うと思うのです。そうすると、今年しか意見が述べられないと思いますが、それだけでも何回かやっているの、どんな意見が出たのかというのがもし分かれば教えていただきたいのと、意見要望書を見ると、構成員の方が、中信地区に中高一貫公立校が存在しないのは全国の自治体でも珍しいと。学びのスタイルの探究型へのシフトを真摯に受け止めて、危機感を共有してほしいと。この危機感を共有してほしいという意味が分からないので、どういった危機感なのかというふうに理解されているのか教えてください。3つです。

赤羽教育長 では、1点目からお願いします。

上條交流文化部次長（社会教育スポーツ課長） 二十歳のつどいにつきましては、ホームページ等で積極的にはお知らせしていませんけれども、保護者も会場に入れます。1階に成人者、2階の席に保護者の皆さんに入っていただくようなことになっておりまして、問合せにはそのように説明をしているところでございます。

審委員 ありがとうございます。

赤羽教育長 2点目の留守番電話をお願いします。

上條学校教育課長 今年度、市内の14校に対しまして、今月の17日から24日の間に留守番電話を設置しました。まだ日が浅い学校についてはスタートしたばかりなので、それほどの反応はありません。転送先は市に来るようになっていますが、苦情等の問合せも来ておりませんし、学校側でもそこまでの不都合さや苦情等、そういったものが来ているという話は伺っていませんので、今のところはおおむね順調で、保護者の理解もできていると感じております。

赤羽教育長 私、職員の話をして1人聞いたのですが、いつも放課後と夕方5時過ぎてまではずっといっぱい来ているところが、その電話が鳴らなくなって、採点に集中できたりとか、学年で話ができるという話は直接聞いております。

審委員 ありがとうございます。

赤羽教育長 これから、1月以降きつと効果が出てくると思います。

3点目、お願いします。

上條学校教育課長 前回の12月19日に行われました高校再編懇話会に私も出席しました。そのときにつきましては、民間事業者3者が、こういった学生が望ましいとか、会社ではこういった人材が欲しいとか、NPOからは、こういった形で成長できたらいいのではないかなというような事例的なものを発表する場がほとんどであり、それに対して学生の皆さんが自分たちもそういうふうと思うと言ったやり取りを懇話会で行いましたが、意見交換までは至っていなかった状況であります。

委員おっしゃった中高一貫ですとか、より具体的な事案については、私も全部知っているわけではありませんので、また調べてみたいと思っております。

審委員 第6回までの懇談の資料を見させてもらっても、あまり具体的な話は出ていないなという感じはします。基本的に、総合学科というほうに向かって話をしていっているものなの

ですか。

上條学校教育課長 そうです。総合学科という形で議題はずっと進んでいるという状況です。

壺委員 中高一貫校のメリット、デメリットはあるかもしれないですけど、ただの総合学科をつくるというよりは中高一貫にしてもいいのかなと思うくらい、特色を持った公立学校というのは必要なと思いますし、私立学校に流れてしまう理由としては、施設の老朽化だったり、公立学校に学業に関しての先進的なものがないというか、私立学校は一つの企業で、新しいものを取り入れて、その時代に合った授業を進めていると私は理解しているのですが、総合学科で、統合で再編をするのであれば、そういったことを話してもらったほうがいいのかと思います。この間、企業が話してくれたことは、全学校同じことだと思うので、塩尻だからという理由が前提にあった話合いを進めていってもらいたいと思います。懇談会は何回まで続くものなのですか。

上條学校教育課長 今のところは何回までというのは何っていない状況です。

壺委員 子どもたちや保護者に魅力ある発信をしてほしいなと思います。どう見ても全然面白くない懇談会だと思うので、その辺、塩尻市にできる学校としては塩尻市の教育委員会が意見を言ってもいいのではないかというふうに思っています。

碓井教育長職務代理者 今のことに関連して、去年あるいはおとしでしたか、県教委の説明を聞いたときには、七、八年先と言っていましたので、現時点では五、六年先に再編するというような感じになるかと思うのですが、案としては、総合学科単位制ということで、そういう方向に進んでいると承知していいわけですか。だとすると、その特徴を生かした具体的な話は出てきているのでしょうか。そんな点を教えていただければと思います。

上條学校教育課長 まだ具体的にどういう方針でということまでは至っていない状況と認識しております。例えばこういう学びができればいいよねとか、そういったところを子どもたちの意見を聞く中で、いろいろな意見を集約しているというような状況であります。

碓井教育長職務代理者 壺委員が先ほど言われましたけれども、現在、志学館、田川については、各学年市内から2校合計で150人までは行かないかもしれないですけども、それ近くの子どもたちが行っているわけでありますので、塩尻市としても、どんな方向で塩尻市の子どもたちを再編後の県立高校で学ばせてほしいかというような点について、ある程度方向性を持って臨んでいくことがいいのではないかというふうに思います。

赤羽教育長 いいですか。今の話はよろしいですか。では、お話をいただいたことはこれでいいですか。それでは、そのほかにありますでしょうか。

碓井教育長職務代理者 1点お願いします。塩尻市とエプソンとの協定についてなのですが、11月下旬の新聞に、塩尻市とエプソンが教育・観光・環境等の5分野を重点に連携協定を結んだという記事が掲載されたかと思います。特に教育分野に関してはどのような内容なのか、そんな点を教えていただければと思います。

上條学校教育課長 先般結んだ協定においては、今後、詳細を詰めていく予定にしております。今でもエプソンと連携し、市の高ボッチ教室等の不登校の教室にエプソンのプリンターをお借りして、テスト問題とか学習の問題等を打ち出すような形で、学校とやり取り等を行うなど、そういった形で学校の活動の一部としてやっている状況はありますが、具体的なものについては、今後、エプソンを交えた中で決めていきたいと考えております。

碓井教育長職務代理者 今、物的なメリットのような感じに聞こえたのですが、人的な

交流とか、そういう部分についても進めていくという、そんなふうにも考えてもよろしいでしょうか。

上條学校教育課長 人的も含めて、まだ決まっているものはないような状況であります。

碓井教育長職務代理者 せっかくやっていくわけですので、そんな点を含め、メリット等をぜひ生かせるように進めていただければと思います。

赤羽教育長 そのほか、皆さんよろしいでしょうか。ありがとうございました。それでは、次に進みたいと思います。

○報告第1号 主な行事等報告について

赤羽教育長 それでは、報告第1号、主な行事等報告についてお願いします。資料1ページから6ページ。事務局から説明をお願いします。

矢澤市民交流センター長（図書館長） 私からは、図書館の行事報告をさせていただきます。1ページ目、一番上にございます信州しおじり本の寺子屋、関川夏央さんの講演会と、この期間内にもう1回、4ページになりますが、12月1日、ねじめ正一さんの講演会がそれぞれございました。関川さんの講演会は89名の御参加をいただいておりますし、4ページにありますねじめ正一さんの講演会については64名の参加をいただいております。今年度、大人の本の寺子屋の講演会は、ねじめ正一さん、12月1日のものが最終の講演会でした。今年も多くの方の御参加をいただきました。今後、企画展がもう1回ございますのと、子ども本の寺子屋は、2月2日にもう1つ講座がございますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

2ページ目にまいりまして、中学生・高校生ビブリオバトル2024長野県大会がございました。全県の高校生・中学生を対象としましたビブリオバトル全国大会の長野県予選を、実行委員会と共に塩尻市図書館で運営を行ったものとなっております。中学生の部は、丘中学校の生徒だけの参加となってしまったため、若干人数的には少なく、決勝戦からとなっておりますけれども、高校生につきましては全県から参加をいただきまして、レベルの高いビブリオバトルが展開されました。今後、開催時期等につきましても、検討していく必要があると思っておりますので、実行委員会と共に検討していきたいと考えております。

3ページ目にまいりまして、11月24日に和綴じ本をつくろうということで、本館が休館中だったため、片丘分館で開催をしました。20名の参加をいただきまして、市内外から幅広い年代の方に参加をいただき、大変好評をいただきました。片丘分館に初めて来ましたという方もおられまして、休館中に分館を知っていただく良いきっかけになったのではないかと感じております。

4ページ目にまいりまして、しおり部ということで、高校生から大学生の図書館ボランティアにつきましては、11月30日に開催いたしました。2月1日・2日にリニューアルオープンイベントを行うに当たりまして、しおり部が主となってやってもらうイベントの準備を行い、必要物品の確認や配布予定物の準備等を進めさせていただいております。図書館からは以上となります。

赤羽教育長 ありがとうございました。続けてお願いします。

古畑文化財課長 私からは、3ページ中段ですけれども、11月30日の自然博物館協力会員研修会ということで、「青木ヶ原樹海の変遷と利用の歴史」を報告いたします。こちらは北部

交流センターで行いました協力会員向けの研修ということで、青木ヶ原の樹海について、こちらに記載はありませんけれども、元信州大学の農学部講師を務めておられた中堀健二氏からの講演ということで、青木ヶ原の樹海についての解説ということで、観光ブームで青木ヶ原の樹海イコール原生林というイメージが定着していたものが、実は伐採の経過があるとか、そういったようなことを学んだということで、24名ですけれども、また新たな知識を身につけていくという研修でございます。私からは以上です。

小松平出博物館長 それでは続きまして、資料4ページ下段を御覧ください。11月2日から12月1日にかけて、ミニ企画展「平出博物館開館70周年記念展」を開催いたしました。平出博物館の最も古い建物であります平出遺跡考古博物館は、昭和29年11月5日に開館ということで、今年で70年の節目を迎えました。それを記念して、建設工事を振り返る、そういった企画展を開催しました。展示会では、平出博物館の建設に深く携わりました三笠宮殿下をはじめといたします4人の人物にスポットを当て、その方々が果たした役割を写真とともに紹介するとともに、ふだん見ることのできない博物館の設計図面、そして博物館の建設を求める運動にまつわる資料などを通して、平出博物館が行政だけでなく、地域住民をはじめとする多くの方々に支えられて成り立っているということを再認識させる展示会となりました。私からは以上です。

赤羽教育長 続けてお願いいたします。

竹中子ども教育部次長（子ども未来課長） それでは5ページ、子ども教育部の行事報告をお願いいたします。11月27日水曜日、テーマ型タウンミーティング「みんなで語ろう♪しおじりの子育て」と題しまして、約30人が参加されました。場所はcore塩尻で、内容につきましては、誰でも無理なく安心して子育てができる地域をテーマに話し合いが行われました。パネラーといたしまして、塩尻市長、あとセイコーエプソンのDE&I戦略推進部部长とひかりテラス保育園園長となっております。成果といたしましては、子育て中のお母さん方も含め様々な方が参加し、多角的な議論ができました。子育て施策に関する御意見、あるいは実際に子育てや育休期を前に悩んでいること、また、それについてパネラーの意見を含め、共有や共感ができたと考えております。

続きまして、6ページになります。11月30日に元気っ子講演会、81名の参加をいただき開催いたしました。場所は保健福祉センター3階でございます。演題は「10代から考えたい“自分の心”安心して大人になっていくために～「みんなと違う」自分を大切にする方法～」と題しまして、講師として信州大学医学部及び同大学附属病院の本田秀夫先生をお願いいたしました。成果といたしましては、昨年に引き続き、親子で聴講できる内容、企画として行いまして、子ども向けの資料などで、講演していただきました。自分がどんなタイプなのかを知り、自分らしさを大切にしているのだというメッセージが込められた内容となっており、下段にありますとおり、子どものアンケートからは、自己肯定感を持ったという肯定的な感想を頂いております。81人のうち小学生から高校生までの15人が子どもでありました。以上でございます。

赤羽教育長 ほかはよろしいでしょうか。それでは、今発表がありましたことに対する質問、御意見がありましたらお願いいたします。

碓井教育長職務代理者 1ページ、一番上の本の寺子屋「司馬遼太郎『坂の上の雲』の方法と、それが書かれた時代」についてですけれども、私は司馬遼太郎が書いたものを幾つか読んだ

ことがありましたし、『坂の上の雲』が書かれた時代というテーマにも惹かれて、この講座に参加させていただきました。講師の関川先生のお話の中で、日露戦争の歴史はよく分からないが、地図はうそをつかないということや、主人公の一人の秋山について、秋山は時代の要求で出てきた、秋山でなくとも代わりは必ずいる。それは時代が何を求めているかであるというようなこと等について興味深く聞かせていただきました。

それから、会場はふだんとは違う保健福祉センターの3階でしたけれども、私はえんぱーくのいつもの会場の良さを再認識させていただいたかなと、そんなことを思ったわけであり。これについては以上であります。

それから、6ページの元気っ子講演会についてですが、親子で本田先生のお話を聴講できる内容ということで、成果のところ、先ほど課長からもありましたけれども、参加した子どもたちから、「今抱えている悩みについてスッキリすることができた」とか「自分はこれでいいのだと思った」等の感想が寄せられたというふうにあります。多感な時代の子どもたちが本田先生からこういうお話をお聴きできて、子どもたちが今後生きる上でとても参考になったのではないかなという感じを持たせていただきました。

私も参加したい希望がありましたが、どうも私が見落とししたというふうに思いますけれども、どのように参加者の募集されたのか。また、昨年度から親子で参加できる講演会に変えたとあるのですけれども、その経緯を含めて教えていただければと思います。

竹中こども教育部次長（こども未来課長） 募集に関しましては、ホームページですとか広報しおじり、あとメールでもHome & Schoolにて発信させていただきました。

経緯につきましては、本田先生にはここ十数年にわたりお願いしておりまして、元気っ子応援事業についてもいろいろと御指導をいただいておりますお立場から、子どもの育ちに関する講演をいただいているところです。どうしても大人向けの難しい児童発達の内容でしたが、子ども向けにメッセージを送れるような機会がほしいという声もありましたので、こういう内容とさせていただきます。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

碓井教育長職務代理者 ありがとうございます。

赤羽教育長 そのほか。

審委員 5ページの「みんなで語ろう♪しおじりの子育て」ですけれども、実際に私は会場に行っていないのですけれども、動画配信があつて、やはりああやってみられるというのは一つの強みだと思いますし、カメラの設置の仕方もすごく考えていて、参加されている方々は、一般の方がほとんど映らない感じで固定して配信されていたので、すごく気を遣いながら配信されているなというふうに見させてもらったので、なるべくあいつた保護者や子育てに関することは、動画配信できたら、してもらえるような形で今後進めていってもらおうと、やはり働いている保護者の方たち、参加できなかつたり見られなかつたりということがあるので、内容は置いておいて、とてもありがたい取組ではないかなと思いました。以上です。

八島委員 私は「みんなで語ろう♪しおじりの子育て」に出席いたしました。参加者の多くはお仲間かお知り合い同士であったように感じました。もっと幅広くいろいろな価値観や、様々な子育て体験談、悩みなどが聴けるとよかったですと思いました。

また、感想ですが、パネラーの方の尺が少々長すぎてしまっていたなと感じました。せっかく参加された保護者の皆様からもっと意見を引き出し、パネラーは的確に答えるといった

会場づくりの方が、満足度が上がったのではないかと感じました。、時間を少し区切って進行されるとよいと思います。以上です。

赤羽教育長 ありがとうございます。

竹中こども教育部次長（こども未来課長） ありがとうございます。感想を頂いて本当に参考になります。動画配信については、実はZ o o mでもリアルタイムで配信をしております、意見も頂けるような環境にはなっていました。

もう1つ、八島委員からの御指摘でありますけれども、募集してもなかなか集まらなかったということもあります。昨年度も子育て支援センターで、市長とのタウンミーティングで子育てをテーマに行いましたけれども、やはり12人ぐらいでした。開催する時間帯もあると思いますけれども、参加者を集めることも今後の反省として残ったと考えております。

赤羽教育長 ありがとうございます。では、続けて。

徳武委員 私は、11月17日、佐佐木頼綱さんの短歌講演会へ行ってきました、感想を一言で言えば、すごくおもしろかったのです。私は、佐佐木頼綱さんはNHKのラジオかテレビかで何度か見たり聞いたりしたことがあって、私自身は短歌を作るわけではないのですけれど、すごく興味があって参加してみました。やはり話がすごくお上手でおもしろかったというのと、参加されていた方の中から短歌を募集してありまして、それを全部推敲してくださったのですけれど、もちろんプロだからそうなのですから、本当に聞いていて楽しくて、また、会場からは、それ私が作ったのですなんていう声が出るぐらい、皆さん興味を持って参加されていたのがとても印象的でした。なかなかこういう方をお呼びするのは難しいとは思いますが、本当に興味深い講演会だったので、またぜひ機会があったら、こういった講演会をやっていただければなというのが私の感想です。

赤羽教育長 ありがとうございます。そのほか、ございますでしょうか。よろしいでしょうか。貴重な御意見ありがとうございます。

ないようでしたら、次に進みたいと思います。

○報告第2号 1月の行事予定等について

赤羽教育長 続いて、報告第2号、1月の行事予定についてお願いいたします。資料7ページです。皆さん全員に関わるものは、6日に新年祝賀交歓会、30日に定例教育委員会・協議会、31日にこんにちは教育委員会がありますので、御都合をつけてよろしく申し上げます。

それでは、見ていただきまして、質問等がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

赤羽教育長 それでは、ないようですので、次に進みたいと思います。

○報告第3号 後援・共催について

赤羽教育長 それでは、報告第3号、後援・共催について、資料8ページ、9ページ、見ていただきまして、御質問、御意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

赤羽教育長 ないようですので、次に進みたいと思います。

続きまして、議事第1号の学校職員の指導上の措置については、個人情報を含むため、議事第2号を先に行いまして、その後、非公開として取り扱いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

赤羽教育長 それでは、そのようにしたいと思います。

4 議事

○議事第2号 塩尻市教育委員会等の公印規則の一部を改正する規則

赤羽教育長 それでは、議事第2号、塩尻市教育委員会等の公印規則の一部を改正する規則ですけれども、資料10ページ、11ページ、事務局から説明をお願いします。

上條学校教育課長 それでは、議事第2号、塩尻市教育委員会等の公印規則の一部を改正する規則の説明をさせていただきます。

まず、1の改正の理由におきましては、各種システムから出力される証明書などに公印の印影を押す際に、印字領域に合わせて印影を縮小または拡大する必要があるため、必要な改正を行うものであります。

詳細につきましては、2の改正の概要について説明をさせていただきますが、電子計算組織、パソコンを使って印字するデジタル公印になりますけれども、それによる公印の印影について、縮小または拡大して出力できる規定を追加するものということで、現在パソコンを使ったデジタル公印の利用については、現在の規則では、公印の大きさが固定されているという規定されています。

例えば、塩尻市教育委員会の印というものがありますが、こちらについては21ミリメートルであったり、もう1つは18ミリメートルというように一辺が規定されているという状況があります。昨今、印字する各種様式によっては不都合が生じていますので、今回の改正で、様式に合わせた印影を縮小拡大することができるように、例えば免許証サイズですとか保険証サイズになると、もう少し小さくする必要が出てきますので、印影を大きくしたり小さくしたりすることができる規定という形にするものであります。

なお、今回、市の押印規則を改正するに当たりまして、これまでも市の改正に合わせて教育委員会も同じ時期に規則を改正しているものですから、今回上程したものということとなります。

施行日につきましては、令和7年1月1日からとするものでございます。説明は以上になります。

赤羽教育長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様から御質問、御意見がありましたらお願いします。

碓井教育長職務代理者 初歩的なことで申し訳ないのですが、電子公印の縮小拡大は必要なことだと思うのですが、電子データへのアクセスはどのように規定されているのか。学校教育課長の承認を得なければならない、これはこのとおりだと思うのですが、その辺、どんなルートで承認を得ていくのかというようなところ、勝手にやるということはないと思うのですが、その辺の規定について教えていただきたいと思います。

上條学校教育課長 通常の電子公印においても、一般的な普通の公印につきましても、現在、電子決済等を取っているものですから、そういった形で決済者の承認を得た後でないと使え

ない形という取決めとなっております。

碓井教育長職務代理人 取決めはそうなっているということですね。そういうふうにしないと使えないということなのですよ。

上條学校教育課長 使う職員も限定されるものですから、使える職員には、ユーザーのパスワードであったりID等を交付しております。誰もが使えるという形ではなくて、限定的な職場で使っていると。例えば市民課等の窓口があるような場所について交付している状況であります。

赤羽教育長 よろしいでしょうか。

碓井教育長職務代理人 ありがとうございます。

赤羽教育長 そのほか、ございますでしょうか。ありがとうございます。

それでは、採決をいたします。議事第2号につきましては、原案のとおり決することで皆さんよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

赤羽教育長 異議なしと認め、原案のとおり決することといたしました。

それでは、次に進みます。

○議事第1号 学校職員の指導上の措置について〈非公開〉

赤羽教育長 議事第1号は非公開とします。本日、傍聴者はいないことを確認しました。それでは、本日お配りしましたマル秘とある資料を御覧ください。

〈非公開部分削除〉

それでは、本日予定されていましたが、このほかに委員の皆様から何かありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

〔「いいです」の声あり〕

赤羽教育長 事務局から何かありますか。

矢澤市民交流センター長（図書館長） 机の上に置かせていただきました、えんぱーくからのお知らせというチラシについてだけ御説明をさせていただきます。長い間、8月から改修工事のため、えんぱーくは休館をさせていただいておりましたけれども、無事工事が終了となりますので、年明け1月23日木曜日から通常どおり開館いたします。全ての機能が再開となり、開館させていただきます。また、2月1日、2日にはリニューアルオープンイベントとしまして、様々な内容のイベントも開催させていただきますので、ぜひともまたよろしくお願ひしたいと思ひます。

赤羽教育長 説明ありがとうございます。よろしいですね。

5 閉会

赤羽教育長 それでは、以上をもちまして、本年12月最後の定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございます。

○ 午後3時07分に閉会する。

以上

令和7年1月30日

署 名

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員 教 育 総 務 課
教 育 企 画 係 長
